



2025

第77期 報告書

2024年4月1日～2025年3月31日

ティアック株式会社

証券コード: 6803



株主の皆様には日頃より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社は2025年3月31日をもって、第77期（2024年4月1日から2025年3月31日まで）を終了いたしましたので、ここに当社グループの事業の概況につきましてご報告申し上げます。

代表取締役社長

英 裕治
Hanabusa Yuji

当期業績について

当連結会計年度におけるわが国経済は、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあり緩やかな回復が続くことが期待されますが、米国の通商政策の影響による景気の下振れリスクが高まっています。また、物価上昇の継続が個人消費に及ぼす影響も我が国の景気を下押しするリスクとなっています。

このような状況の中で当社グループは、音響機器事業のうちプレミアムオーディオ機器事業では、ESOTERICブランドにおいて、高音質、高付加価値な製品展開を推し進め、ブランド価値を高めることで、海外市場を伸ばし堅実な成長路線を引き続き目指してまいりました。TEACブランドにおいては、引き続き高級機Referenceシリーズの更なる強化により、収益とブランドイメージの向上に努めてまいりました。輸入ブランドにおいては、ブランドの持つ個性を訴求することで、ブランドの定着を強化してまいりました。音楽制作・業務用オーディオ機器事業（TASCAMブランド）では、業務用デジタルミキサーを軸としながら、周辺機器のラインナップ拡充も行っており、従来の録音再生機器とともに、更に柔軟で質の高いトータルシステムソリューションの提供を強みとしたBtoB事業の拡大に努めてまいりました。また、BtoC事業においては、製品ポートフォリオの選択と集中を進め、付加価値を明確に中高価格帯へ転換し、採算性の向上と市場シェアの拡大を目指してまいりました。情報機器事業では、当社のコアコンピテンスである「高度な記録と再生技術」をベースに

計測、半導体、医療、移動体の各分野において独自技術や先端技術を組込んだ製品開発を行い、ニッチトップポジションの獲得を進めてまいりました。また、積極的な訪問営業により、ターゲット顧客に当社製品に対する投資メリットの理解を促す形で拡販を図るとともに、ユーザーから直接ヒアリングした意見やニーズを新製品の開発に取り込んでまいりました。

当連結会計年度におきましては、TASCAMブランドBtoC事業のうちエントリー向けの低調ならびに情報機器事業の半導体製造装置向けの回復遅れにより、原価率の上昇及びその他事業の縮小に伴う減益の挽回が不十分となり、営業利益は前期と比較して減少しました。一方、為替相場の変動に伴い為替差損を計上しましたが前期と比較して損失が減少したことから、親会社の所有者に帰属する当期利益は増加しました。

この結果、当社グループの連結会計年度の売上収益は15,668百万円（前期比0.0％減）、営業利益は340百万円（前期比23.5％減）、親会社の所有者に帰属する当期利益81百万円（前期親会社の所有者に帰属する当期損失53百万円）となりました。

利益配分に関しては、2025年5月14日に開示いたしました「株主還元に関する基本的な方針」に記載の通り、中長期的な企業価値向上のために人材、技術開発、ブランド価値向上等の成長投資に資金を投下し、機動的な経営を可能にするための内部留保の適正な水準を維持しつつ、株主の皆様への還元を最大化することを株主還元の基本方針といたしました。当期の期末配当につきましては、当事業年度において同方針で配当再

開の目安といたしました自己資本比率25％を超えたことから当初の予想通り1株当たり1円を予定しております。

また、次期の配当につきましては、業績及び財務状況の向上に努め上述の方針のもとで年間配当予想を1株当たり1円（期末配当金）といたします。

次期の業績見通しについて

音響機器事業においては、高価格帯のBtoC向け製品、音響設備市場向け製品などが好調に推移しましたが、米国市場での販売網の再編成などの影響により前期比で横ばいに留まっています。情報機器事業においては、半導体需要の回復の遅れ、海外エアラインによる大口導入の延期などの影響で、セグメント利益は増加しましたが十分な成長には至りませんでした。

当社が比較優位性を持つ製品の適宜価格改定と併せ、更なる戦略製品の導入と事業領域の拡大により一層の収益力向上を目指します。しかしながら、インフレーションや金融市場の混乱、ウクライナ危機や中東問題ならびに紅海情勢悪化といった地政学的リスクなどが存在し、予断を許さない状況が続くと見込まれています。また、米国における通商政策のマイナス影響は、現時点で想定される範囲内で業績予想に織り込んでおります。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2025年3月

連結業績ハイライト（国際会計基準）

※ 2025年5月14日公表の当社2025年3月期決算短信における連結業績予想

					第75期	第76期	第77期	第78期見通し※			
					2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期			
売	上	収	益	(百万円)	15,699	15,672	15,668	16,000			
営	業	利	益	(百万円)	563	445	340	350			
税	引	前	当	期	利	益	(百万円)	341	5	59	150
親会社の所有者に帰属する当期利益					(百万円)	305	△53	81	100		
基本的1株当たり当期利益					(円)	10.60	△1.85	2.82	3.47		
資	産	合	計	(百万円)	10,958	11,871	10,815	—			
資	本	合	計	(百万円)	3,112	3,574	3,558	—			

音響機器事業 70.5%

売上収益 11,044百万円
(前期比 1.0%増)

セグメント営業利益 1,219百万円
(前期比 2.2%減)

プレミアムオーディオ機器 (ESOTERICおよびTEACブランド)は、ESOTERICブランドにおいて、SACDプレーヤー、ネットワークプレーヤー、フォノアンプが好調に推移しました。TEACブランドにおいては、USB DAC、ターンテーブルカテゴリーが堅調に推移しました。輸入ブランドにおいては、Tannoyブランド、Klipschブランドのスピーカーが好調に推移しました。北米販売の成長もあり、プレミアムオーディオ機器全体では、前期比で増収となりました。

音楽制作・業務用オーディオ機器 (TASCAMブランド)は、BtoB事業において、年間を通じて音響設備工事需要が安定して推移したことにより主力録音再生機と各種周辺機器の販売が好調に推移しました。業務用ミキサーは、海外では前年に販売を開始したことによる反動減があり低調に推移しましたが、次世代IP伝送規格に準拠した放送局案件への導入が進んでおります。BtoC事業においては、クリエイター向け新製品効果により下期において好調な推移となりましたが、米国市場において上期に販売網の再編成を行った結果、市中在庫調整による出荷減が発生し低調に推移しました。その結果、音楽制作・業務用オーディオ機器全体では前期比で減収となりました。

- ハイエンドオーディオ機器
- プレミアムオーディオ機器
- 音楽制作・業務用オーディオ機器

オリジナルブランド

ESOTERIC TEAC TASCAM

情報機器事業 25.5%

売上収益 3,989百万円
(前期比 1.4%増)

セグメント営業利益 209百万円
(前期比 57.0%増)

計測機器は、データレコーダーにおいて、防衛関連向けの大口案件の出荷に加え、第4四半期に上市された新製品の貢献もあり、販売が好調に推移しましたが、センサーおよびデジタル指示計においては、PCやスマートフォン用の半導体需要が緩やかな回復に留まり、当社製品のコア市場である、これらの半導体の製造装置向け販売が低調な推移となったことから、カテゴリー全体では前期比で減収となりました。

医用画像記録再生機器は、国内の消化器内視鏡向けレコーダーの出荷が堅調に推移し、フラッグシップモデルの手術画像記録用4Kレコーダーも国内と北米における販売が大きく伸長したことから、前期比で増収となりました。

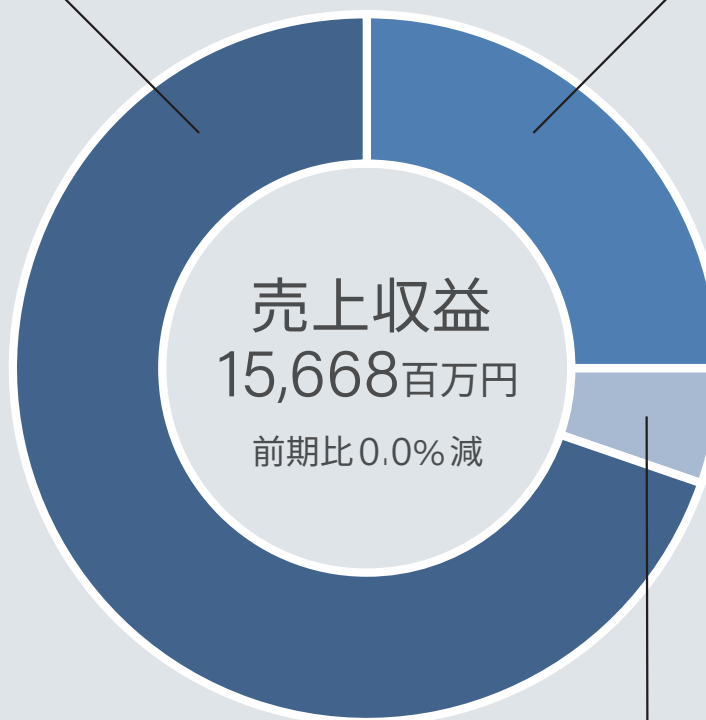
機内エンターテインメント機器は、国内の船舶業界向けの取引が拡大し、機内サーバーも海外パートナー向け販売が開始されましたが、海外エアラインによる大口導入が来期に先送りとなった影響で、前期比で減収となりました。

ソリューションビジネスは、医用向けサーバーの出荷が年間を通じて好調に推移し、前期比で増収となりました。

- 計測機器 データレコーダー
トランスデューサー
- 医用画像記録再生機器
- 機内エンターテインメント機器
- ソリューションビジネス

オリジナルブランド

TEAC



その他事業 4.0%

売上収益 635百万円
(前期比 21.6%減)

セグメント営業利益 21百万円
(前期比 54.9%減)

- EMS 事業
- 産業用光ドライブ

要約連結財政状態計算書（単位：百万円）

	当期 2025年 3月31日現在	前期 2024年 3月31日現在
■ 資産		
流動資産	8,568	9,286
現金及び現金同等物	1,552	1,227
営業債権及び その他の債権	3,108	3,517
棚卸資産	3,661	4,214
その他の流動資産	248	328
非流動資産	2,246	2,585
有形固定資産	1,853	2,211
無形資産	115	107
繰延税金資産	11	15
その他の金融資産	143	132
その他の非流動資産	125	119
資産合計	10,815	11,871

（単位：百万円）

	当期 2025年 3月31日現在	前期 2024年 3月31日現在
■ 負債		
流動負債	5,557	5,434
社債及び借入金	2,565	2,110
リース負債	373	367
営業債務及びその他の債務	1,024	1,504
引当金	689	657
未払法人所得税	13	22
その他の流動負債	894	775
非流動負債	1,700	2,862
社債及び借入金	797	1,478
リース負債	477	792
長期未払金	336	511
引当金	44	44
繰延税金負債	22	17
その他の非流動負債	24	21
負債合計	7,257	8,297
■ 資本		
親会社の所有者に帰属する持分合計	3,558	3,574
資本金	3,500	3,500
資本剰余金	11	11
自己株式	△ 122	△ 122
利益剰余金	2,211	2,181
利益剰余金 (IFRS移行時の累積換算差額)	△ 3,430	△ 3,430
その他の資本の構成要素	1,387	1,433
非支配持分	—	—
資本合計	3,558	3,574
負債及び資本合計	10,815	11,871

要約連結損益計算書（単位：百万円）

	当期 2024年4月1日～ 2025年3月31日	前期 2023年4月1日～ 2024年3月31日
売上収益	15,668	15,672
売上原価	8,872	8,665
売上総利益	6,796	7,007
販売費及び一般管理費	6,413	6,581
その他の損益	△ 44	19
営業利益	340	445
金融収益	6	8
金融費用	287	448
税引前当期利益	59	5
法人所得税費用	△ 22	58
当期利益	81	△ 53
当期利益の帰属先		
親会社の所有者持分	81	△ 53
非支配持分	—	—

要約連結キャッシュ・フロー計算書（単位：百万円）

	当期 2024年4月1日～ 2025年3月31日	前期 2023年4月1日～ 2024年3月31日
営業活動による キャッシュ・フロー	1,178	116
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 115	△ 106
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 706	△ 69
現金及び現金同等物に 係る換算差額	△ 33	90
現金及び現金同等物の 増減額（△は減少）	325	31
現金及び現金同等物 期首残高	1,227	1,196
現金及び現金同等物 期末残高	1,552	1,227

要約連結持分変動計算書（2024年4月1日～2025年3月31日）（単位：百万円）

	親会社の所有者に帰属する持分						非支配 持分	資本 合計
	資本金	資本 剰余金	自己 株式	利益 剰余金	利益剰余金 (IFRS移行時の 累積換算差額)	その他の 資本の 構成要素	合計	
当期首残高	3,500	11	△ 122	2,181	△ 3,430	1,433	3,574	—
当期包括利益								
当期利益(△損失)				81			81	81
その他の包括利益						△ 69	△ 69	△ 69
当期包括利益合計	—	—	—	81	—	△ 69	13	13
所有者との取引等								
配当金				△ 29			△ 29	△ 29
自己株式の取得			△ 0				△ 0	△ 0
その他の資本の構成要素か ら利益剰余金への振替				△ 22		22	—	—
その他の増減							—	—
所有者との取引等計	—	—	△ 0	△ 51	—	22	△ 29	—
当期末残高	3,500	11	△ 122	2,211	△ 3,430	1,387	3,558	—

※連結財務諸表の記載金額は百万円未満を四捨五入して表示しております。

Point 1 連結財政状態計算書

＜資産合計＞

現金及び現金同等物の増加 325 百万円、営業債権及びその他の債権の減少 408 百万円、棚卸資産の減少 554 百万円、有形固定資産の減少 358 百万円となり、前期末と比較し、1,056 百万円減少となりました。

＜負債合計＞

営業債務及びその他の債務の減少 480 百万円、社債及び借入金の減少 227 百万円、リース負債の減少 309 百万円となり、前期末と比較し、1,039 百万円減少となりました。

Point 2 連結損益計算書

＜売上収益・営業利益＞

TASCAM ブランド BtoC 事業のうちエントリー向けの低調ならびに情報機器事業の半導体製造装置向けの回復遅れにより、原価率の上昇及びその他事業の縮小に伴う減益の挽回が不十分となり、営業利益は前期と比較して減少しました。

Point 3 連結キャッシュ・フロー計算書

＜営業活動によるキャッシュ・フロー＞

当期における主な内訳は、プラス要因として、減価償却費及び償却費 494 百万円、金融収益及び金融費用 215 百万円、営業債権及びその他の債権の減少 269 百万円、棚卸資産の減少 509 百万円、マイナス要因として、営業債務及びその他の債務の減少 486 百万円、長期未払金の減少 210 百万円であります。

＜財務活動によるキャッシュ・フロー＞

当期における主な内訳は、プラス要因として、短期借入金の純増減額 815 百万円、マイナス要因としては、長期借入金の返済による支出 1,022 百万円、リース負債の返済による支出 375 百万円であります。

要約貸借対照表 (単位:百万円)

	当期 2025 年 3 月 31 日現在
■ 資産の部	
流動資産	5,077
現金及び預金	854
受取手形	77
電子記録債権	226
売掛金及び契約資産	1,715
商品	784
原材料及び仕掛品	627
前払費用	114
関係会社短期貸付金	347
未収入金	244
リース債権	56
その他	34
固定資産	6,632
有形固定資産	1,418
無形固定資産	73
投資その他の資産	5,141
繰延資産	3
資産合計	11,712

(単位:百万円)

	当期 2025 年 3 月 31 日現在
■ 負債の部	
流動負債	5,896
支払手形	9
電子記録債務	141
買掛金	306
短期借入金	2,000
関係会社短期借入金	1,920
1年内返済予定の長期借入金	381
1年内償還予定の社債	100
リース債務	60
未払金	365
未払費用	157
未払法人税等	60
前受収益	11
前受金	16
預り金	18
賞与引当金	188
製品保証引当金	44
未払消費税等	79
その他	42
固定負債	1,201
負債合計	7,097
■ 純資産の部	
株主資本	4,615
資本金	3,500
資本剰余金	54
利益剰余金	1,183
自己株式	△ 122
純資産合計	4,615
負債及び純資産合計	11,712

要約損益計算書 (単位:百万円)

	当期 2024 年 4 月 1 日～ 2025 年 3 月 31 日
売上高	11,616
売上原価	6,765
売上総利益	4,851
販売費及び一般管理費	4,449
営業利益	402
営業外収益	156
営業外費用	319
経常利益	239
特別収益	243
特別損失	54
税引前当期純利益	427
法人税等調整額	△ 95
当期純利益	522

要約株主資本等変動計算書（2024年4月1日～2025年3月31日）

(単位:百万円)

	株主資本							純資産 合 計
	資 本 金	資本剰余金	利益剰余金			自己株式	株主資本 合 計	
		その他 資本剰余金	利益準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金 合計			
当期首残高	3,500	54	3	687	689	△ 122	4,122	4,122
当期変動額								
剰余金の配当				△ 29	△ 29		△ 29	△ 29
利益準備金の積立			3	△ 3	—		—	—
当期純利益				522	522		522	522
自己株式の取得						△ 0	△ 0	△ 0
当期変動額合計			3	491	494	△ 0	494	494
当期末残高	3,500	54	6	1,177	1,183	△ 122	4,615	4,615

※単体財務諸表の記載金額は百万円未満を切り捨てて、表示しております。



TEAC

Reference シリーズ

AP-507
HA-507

TEACでは、ステレオパワーアンプ『AP-507』とヘッドホンアンプ/プリアンプ『HA-507』を市場に投入し、大きな注目を集めました。

『AP-507』は、コンパクトな筐体にHypex社製の次世代クラスDアンプモジュール「NCOREx」を搭載。従来から定評のある滑らかで温かみのあるサウンドに加え、奥行きや高さといった空間表現力にもさらなる磨きをかけています。省スペース設計ながら高い駆動力を実現し、幅広いスピーカーとの組み合わせに柔軟に対応可能です。

一方、『HA-507』は、スピーカーすら駆動できるAB級動作のパワー素子を採用した高性能なヘッドホンアンプ/プリアンプです。バランス接続に対応し、抵抗切り替え式のフルバランスアッテネーターを備えることで、ヘッドホンの性能を余すところなく引き出すと同時に、スピーカーシステムへの発展も視野に入れた本格アンプとなっています。

両機種とも、従来モデルから大幅な進化を遂げており、オーディオファンから高い評価を獲得。また、洗練された外観デザインや高品位な操作感も追求し、所有する喜びを提供します。

TEACブランドは今後も、長年にわたり培ってきた音響技術と独自の設計哲学を活かし、グローバル市場を見据えた製品開発を推進することで、さらなるブランド価値の向上を目指してまいります。



ESOTERIC

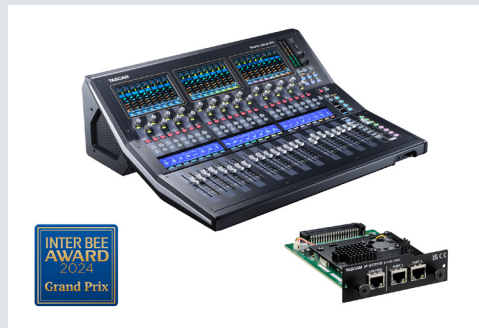
Grandioso シリーズ

Grandioso N1T
Grandioso E1

2024年度、ESOTERICは、ネットワークトランスポート『Grandioso N1T』とフォノアンプ『Grandioso E1』を発表し、ハイエンドオーディオ市場に大きなインパクトを与えました。

『N1T』は同ブランド初のストリーミング専用トランスポートで、第4世代「ESOTERIC Network Engine G4」を搭載。需要の高い光LANやDACケーブル用にSFPポートへの対応や大容量RAM採用により、DSD 22.5MHz再生を含む超高精度デジタル伝送を実現し、ネットワークとオーディオ回路を完全分離した独立リニア電源設計で、滑らかで実在感あるサウンドを提供します。ESLINK DIGITAL出力を用いて、モノラルDAC『DIX SE』と接続すれば、堂々3筐体構成のネットワークプレーヤーシステムが完成します。

『E1』はGrandiosoシリーズ初のフォノアンプで、MCバランス・カレント入力方式や光カートリッジ専用入力、完全バランス構成の可変イコライザー回路、6種類のEQカーブ設定など多彩な機能を搭載し、アナログ再生の新基準を確立しました。また、国内著名オーディオ雑誌の「Stereo Sound」にて最高峰の賞、Stereo Sound Grand Prix Golden Sound Awardを獲得した史上初のフォノアンプとなりました。



TASCAM

業務用デジタルミキサー

TASCAM Sonicview シリーズ
SMPTE ST 2110 準拠オプションカード
IF-ST2110

『TASCAM Sonicviewシリーズ』は、2022年春に国内市場で販売を開始して以来、直観的なGUI（グラフィカル・ユーザー・インターフェース）、クラスを超えた高音質、コンパクトな筐体、そして放送局の運用に適した各種機能を備えた、コストパフォーマンスに優れたデジタルミキサーとして、高い評価をいただいております。現在では、日本国内のみならず欧州を中心とした多くの放送局で導入が進んでいます。

新たにラインナップに追加されました SMPTE ST 2110 規格に準拠した64入力／64出力対応のIP接続オプションカード『IF-ST2110』は、TASCAM Sonicview本体に装着することで、IPスタジオシステムにも対応可能な小型の音声ミキシングコンソールとして運用いただけるようになり、IP接続のニーズにも柔軟かつコスト効率よく応えることが可能となります。

さらに、ネットワーク経由での外部制御を可能とする Ember+ プロトコルや、SNMPによる遠隔監視機能にも対応しており、次世代の放送インフラに求められる高い運用性と拡張性を備えています。

これらの製品開発が高く評価され、『TASCAM Sonicviewシリーズ』およびオプションカード『IF-ST2110』は、2024年の「INTER BEE AWARD」プロフェッショナルオーディオ部門において、名誉あるグランプリを受賞いたしました。



TEAC

メディカルビデオレコーダー

UR-4MD-SE

2014年より販売開始した『UR-4MD』は、手術映像記録向けメディカルビデオレコーダーとして10年以上に渡り医療現場への提供を続けてきました。これまで医療現場からいただいたご意見やご要望を取り入れて培った機能や操作性を活かし、国内市場向けに新たに『UR-4MD-SE』を2025年4月より販売開始いたしました。

直感的に操作可能なフロントパネルデザインはそのままに、ネットワーク転送のニーズの増加に対応すべく、これまではオプション機能であったネットワーク機能を標準搭載しました。また、内蔵HDDはこれまでの500GBから2倍となる1TBに増やすことでレコーダー本体への長時間動画記録の保存、記録データ容量の大容量化への対応もおこない、バックアップ機能もさらに強化させました。フロントパネルにはUSBポートが2つ用意されておりますので、内蔵HDD、ネットワーク転送とあわせ最大4か所への同時記録が可能となりました。

ティアックは、今後も医療現場の皆様から信頼される製品を提供してまいります。

会社の概要

商 号	ティアック株式会社 (TEAC CORPORATION)
本 社	〒206-8530 東京都多摩市落合一丁目47番地
設 立	1953年8月26日
資 本 金	35億円
事業年度	4月1日～翌年3月31日
代 表 者	代表取締役社長 英 裕治
従業員数	単体 237名 連結 547名

●国内拠点

ティアック株式会社	
本社	〔東京都〕
EMCセンター	〔埼玉県〕
大阪営業所	〔大阪府〕
名古屋営業所	〔愛知県〕
ティアックマニュファクチャリングソリューションズ株式会社	〔東京都〕
ティアックカスタマーソリューションズ株式会社	〔埼玉県〕
ティアックシステムソリューションズ株式会社	〔東京都〕

●海外拠点

TEAC AMERICA, INC.	〔米国〕
TEAC EUROPE GmbH	〔ドイツ〕
TEAC UK LTD.	〔英国〕
TEAC SALES & TRADING (ShenZhen) CO., LTD.	〔中国〕
TEAC AUDIO (CHINA) CO., LTD.	〔香港〕
DONGGUAN TEAC ELECTRONICS CO., LTD.	〔中国〕

役員（2025年6月26日現在）

代表取締役社長	英 裕 治
取 締 役	倉 原 良 弘
取 締 役	金 子 靖 代
取締役（監査等委員）	林 健 二
取締役（監査等委員）	原 琢 己
取締役（監査等委員）	坂 口 洋 二

株式の状況

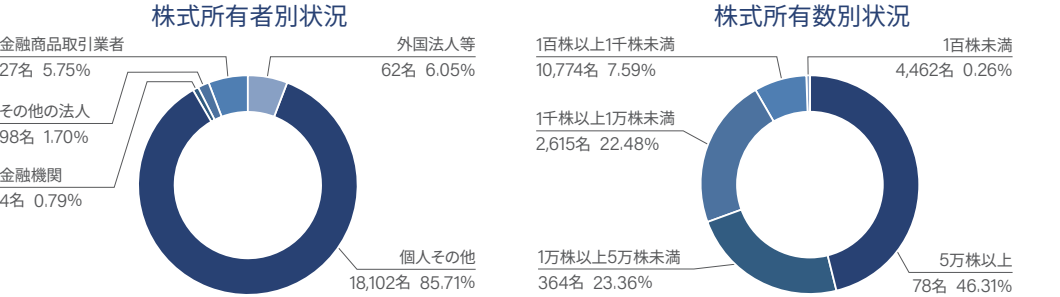
発行可能株式総数	……	40,000,000株
発行済株式の総数	……	28,803,073株 (自己株式128,640株を除く)
株主数	……………	18,293名

大株主（上位10名）

株 主 名	持株数 (千株)	出資比率 (%)
山下 良久	1,126	3.91
松尾 博	738	2.56
力丸 米雄	711	2.47
THE BANK OF NEW YORK MELLON 140040	562	1.95
勝山 隆一朗	500	1.74
西本 誠治	500	1.74
SMBC日興証券株式会社	492	1.71
ティアック社員持株会	409	1.42
安藤 収	355	1.23
岡野 剛昌	330	1.15

※持株数は表示単位未満を、出資比率は小数点第3位を四捨五入して表示しております。

※持株比率は、自己株式（128,640株）を控除して計算しております。



株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
配当金受領株主確定日	3月31日
単 元 株 式 数	100 株
定 時 株 主 総 会	毎年6月
株 主 名 簿 管 理 人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特 別 口 座 の 口 座 管 理 機 関	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
同 連 絡 先	東京都府中市日網町1-1 TEL 0120-232-711（通話料無料） （郵送先）〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
上 場 証 券 取 引 所	東京証券取引所 スタンダード市場
公 告 の 方 法	電子公告により行う。
公 告 掲 載 URL	https://www.teac.co.jp/about/jp/koukoku (ただし、やむを得ない事由により、電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に公告します。)
【株式事務に関するご案内】	1.各種お手続きのお問合せ窓口について 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。 2.特別口座に記録された株式に関する各種お手続きについて 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、左記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。

単元未満株式をご所有の株主様へ

単元未満株式(100株に満たない株式)の買取請求のご案内

単元未満株式(100株に満たない株式)については、「単元未満株式の買取請求」により、当社に売却をしていただくことができます。

当社は、単元未満株式の買取請求に係る**当社手数料を無料**※としておりますので、本制度のご利用をご検討くださいますようお願い申し上げます。

※無料となる手数料は当社に係る手数料です。証券会社等において取次手数料等がかかる場合もあります。



ティアック株式会社

〒206-8530 東京都多摩市落合一丁目47番地
TEL 042-356-9100（代表）

ホームページアドレス <https://www.teac.co.jp/jp/>